

第3回 明治記念大磯邸園邸宅保存活用計画検討委員会 議事要旨

【日時】令和元（2019）年11月22日（金）午前：9:50～11:20

【場所】横浜地方合同庁舎 7階 第1会議室

【出席委員】

委員：水沼委員、吉田委員

行政委員：竹内委員、森尻委員、笹山委員、佐川委員、野村委員、田中委員

【会議の概要】

1. 議事

（1）邸宅の現況と課題（前回委員会以降の調査結果報告）について

委員）旧滄浪閣について昭和28年の火事の規模は分かっているのか。

事務局）現地調査の結果、煤はほぼ全域に広がっている。ボイラ室周辺の材の炭化は大きく、厨房付近は後補材になっているが、他の部分はほぼ当初材である可能性が高い。

委員）旧池田邸の屋根瓦は、後補（JIS製品）のものがどの程度混ざっているのか。

事務局）現地にて屋根の一部を調査した結果、判明したものである。修繕記録の中に、雨漏れの改修実績があることから、その際部分的に補修したものと考えられる。

委員）葛西田中建築事務所の田中實は、清水組（現：清水建設）所属の時代に古河家の麻布別邸を設計している。大磯の別邸も田中實の仕事の可能性が高い。

また、請負者の横溝豊吉は初代が横浜日ノ出町の石工で石豊と呼ばれていた。今回の人物は二代目で、東京の下目黒に移り、幅広く事業をやっていたようだ。東京の人間で造られたものと考えられる。

委員）陸奥邸跡から棟札が発見されたことは大きな成果である。今後、葛西田中建築事務所が設計したことの意義を調べる必要がある。

（2）邸宅の本質的価値と構成要素について

委員）李王家の方子夫人は、大磯に別邸を所有した唯一の皇族である梨本宮家の出身で、旧滄浪閣の隣にあった鍋島家は母親の実家になる。大磯は李王家夫妻にとって、伊藤と李娘の繋がりだけでなく、馴染みのある土地だったことをどこかに記載してほしい。

委員）価値の文章はだいぶ整理されて良いと思う。邸宅の価値と共に公表するのであれば、邸宅の特徴をよく現す内観写真を選択してほしい。旧池田邸はやはりエントランスホールが妥当だと思う。また、旧大隈邸も神代の間の特徴が良くわかるものがよい。

（3）保存管理計画について

委員）旧滄浪閣の復原の可能性がある範囲の資料は、図面と写真の他にあるのか。

事務局）これ以上の資料は現時点ではない。そのため、材の残存状況が判明後に復原の可否を判断する予定である。

委員）昭和20年代後半に改修された可能性があるものの、昭和であれば、町民に募集すれば写真があるのではないか。

行政委員）以前、写真を募集したことがあったが、出てこなかった。資料写真の募集だったので、個人の記念写真を含めた募集方法に変えれば、あるいは見つかるかもしれない。

行政委員）明治の立憲政治とのつながりをより意識した保存活用を考えることが望ましい。鴨居が低いだとか、足が悪い大隈のために暖炉があつただとか、往時を物語る部分という意味があるから大切だと思う。改修や復元といった判断は、歴史エピソードの語り部としての部材、こうした視点に由来するものであって欲しい。

事務局）現時点の保存管理方針としては、客観的に目安とする時代の当初材の残存状況で整理すべきと考えている。存在の根拠が不明確なまま、方針を作成するのは難しい。一方、展示の際には重要となる視点であるため、今後盛り込むべき事項だと認識している。

行政委員）本質的価値を構成しない諸要素は、風致の保全や公園利用の観点だけでなく、本質的価値を守る、あるいは阻害しないという点も記載が必要なのではないか。

事務局）ご指摘を踏まえ、修正する。

2. その他

- ・12月23日に第2回明治記念大磯邸園有識者委員会を開催予定。
- ・令和2年1月中旬に来年の一部公開に関わる整備内容について住民説明会を予定。
- ・第4回検討委員会を令和2年1月下旬に開催予定。

以上